

太田紙販売「瀧澤ハンドクリーム」完成 日本酒に日本製紙のCNF・セレンピア配合

太田紙販売(株)(東京都台東区、滝澤寛美社長)は、日本製紙(株)のセルロースナノファイバー(CNF)配合の化粧品(ハンドクリーム)の発売元となり、これまで開発を進めてきた。このたび、製品が完成し、十二月十二日より販売を開始する。

原料の日本酒は、酒蔵・信州銘醸(長野県上田市、滝澤恭次社長)が供給した。縄文時代からの黒耀石で有名な長野県・和田峠産の超軟水「黒耀水」を活用し、発酵しにくい超軟水を、国内・海外の酒コンテストにおいて多数の金賞受賞実績を誇る技術力でカバール、日頃の酒造りを行っている。今回の化粧品・ハンドクリームの主成分は、黒耀水を使用した純米吟醸酒「瀧澤」であり、上級グレードの日本酒を贅沢に配合して製造する。

製品開発のきっかけは、昨秋、日本製紙のバイオマスマテリアル販売推進部の化粧品チームのメンバーが「日本酒を主成分とし、CNF・セレンピアを配合した化粧品を開発したい」と提案したことから始まった。

◇

その案に対して、日本製紙の幹部から太田紙販売へコラボレーションの依頼があった。太田紙販売は、コロナ対策商品として酒造会社が製



12月12日より販売開始



原料の「純米吟醸瀧澤」のラベル

造した「高濃度アルコール消毒液」の販売を手掛けてきた。

昔から「酒造会社の杜氏さんの手は、白くてきれい」と言われてきたように、日本酒は、元来保湿効果を持ち合わせており、天然由来のCNFを、ヒアルロン酸

に代わる保湿成分として配合することで、うるおいたっぷりに、保湿効果が持続できる。無香料だが、麴のほのかな香りがする。

CNFは、日本製紙・江津工場(島根県)製の食品・化粧品用の「セレンピア」を使用し、パッケージには同・草加工場(埼玉県)製のチップボール三五〇㍻を使用した紙箱で提供する。

◇

紙箱・ラベル等のデザインは、日本製紙バイオマスマテリアル・コミュニケーションセンターの所属デザイナーによるものだ。

している。

発売本数は、五〇〇〇本を予定。B2Bの基本の販売ロットは、一二〇本入り(段ボール箱単位)となる。今月末より十二月初めにかけて、具体的な受注受けを開始する。個人からの要望に対しては、丸紅フォレストリンクス(株)(千代田区、大日方直樹社長)のEC直販店での販売が決定した。

また、日本製紙グループの桜井(株)(台東区、佐瀬和彦社長)および日本紙通商(株)(千代田区、吉田太社長)の二社のEC店での販売も行う。紙の博物館(北区)でも、サンプルを置き、店頭での販売が決まっている。太田紙販売は「手に取って体感できるセレンピアを前面に押し出し、化粧品向けCNFの販路拡大の一助になるよう、老若男女問わずに、幅広い層に利用いただけることを願っている」と発表している。

問合せ先・太田紙販売(株) 紙化推進室・加藤室長まで (電話) 03・3851・2131